

- 記者発表資料 -

**海洋・港湾技術の早期実用化に向けた  
共同研究協定の締結について**  
— 京浜港ドックを活用した実証試験の開始 —

平成28年6月13日に京浜港ドックを活用した「海洋・港湾技術の早期実用化に向けた実証試験」の一般公募を行い、4件の民間からの提案課題を選定したところです。

選定された課題は、いずれも関東地方整備局が推進しているi-Constructionに寄与する案件であり、官民共同で研究を進めることにより、関東地方整備局と各提案者の双方に相乗効果が期待されることから、この度、各提案者と共同研究協定を9月9日に締結いたしました。(別紙参照)

今後、上記協定に基づき、来月上旬より実証試験を進め、我が国の海洋・港湾に係る新技術の早期実用化並びに海洋・港湾工事への適用を通じた生産性の向上を目指します。

**発表記者クラブ**

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、横浜海事記者クラブ  
神奈川県政記者クラブ・横須賀市政記者クラブ

**お問い合わせ先**

関東地方整備局 港湾空港部

海洋環境・技術課 課長

海洋環境・技術課 課長補佐

電話 045-211-7420

のぐち たかとし

野口 孝俊

なかがわ ひろし

中川 大

FAX 045-211-0204

海洋・港湾技術の早期実用化に向けた  
共同研究協定の締結について  
—京浜港ドックを活用した実証試験の開始—

日 時：平成28年9月9日（金）10：00～11：00

場 所：国土交通省関東地方整備局港湾空港部

出席者：一般社団法人 海洋調査協会	会 長	川嶋 康宏
(代表者) 朝日航洋株式会社	執行役員	仁村 利夫
五洋建設株式会社技術研究所	所 長	関本 恒浩
		(以上 課題受付順)
関東地方整備局	副 局 長	高田 昌行



写真-1 一般社団法人 海洋調査協会との締結

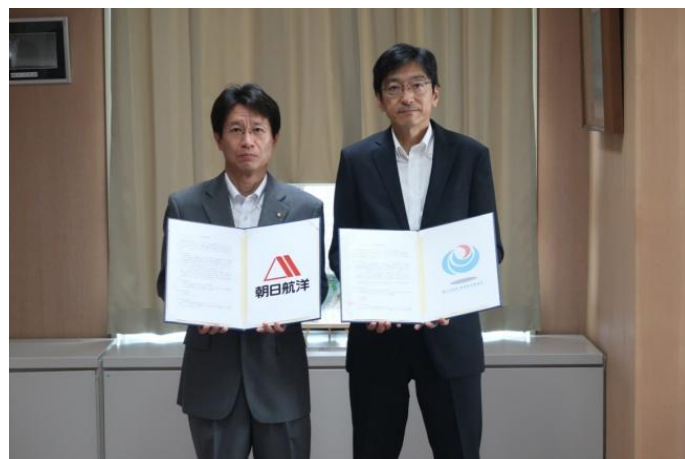


写真-2 朝日航洋株式会社との締結

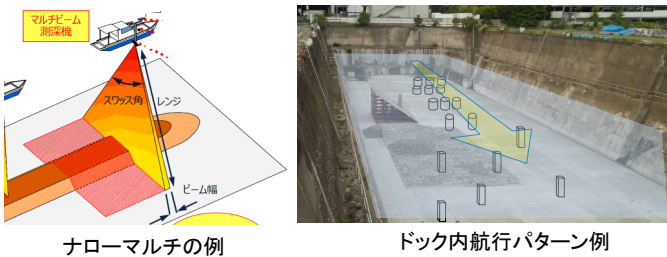
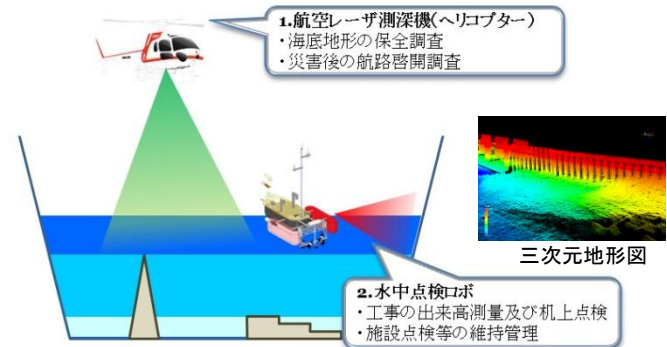
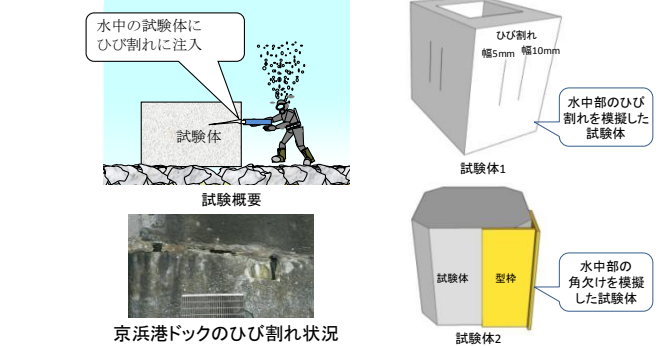
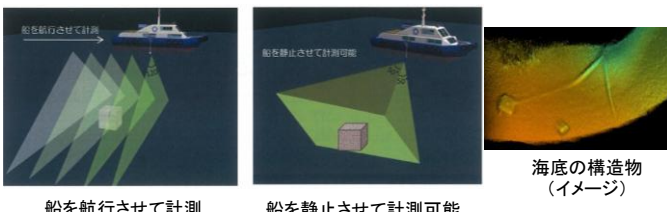


写真-3 五洋建設株式会社技術研究所との締結



写真-4 民間各社と高田副局長

別紙

提案者	課題名	テーマ	実証試験の概要	開始予定
一般社団法人 海洋調査協会	航路啓開における測深・海底状況把握技術(水中物体の位置と形状確認のための計測システムの運用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な港湾工事の施工技術</li> <li>・航路啓開における測深・海底状況把握技術</li> </ul>	<p>4種の音響測深機(インターフェロメトリ、シングル、ナローマルチ、音響スコープ)による海底の障害物を想定した設置物体の計測精度の確認と各測深機の効率的な運用試験を行う。</p>  <p>マルチビーム測深機 スワップ角 レンジ ビーム幅 ナローマルチの例 ドック内航行パターン例</p>	10月中旬
朝日航洋株式会社	航空レーザ測深機と水中点検ロボを組み合わせた海洋・港湾における有用な調査技術の実証試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航路啓開における測深・海底状況把握技術</li> <li>・海洋における有用な調査技術</li> </ul>	<p>航空レーザ測深機による海底地形調査の精度確認と音響測深機を搭載した水中点検ロボでの施設状況調査の施工性確認を実施する。</p>  <p>1.航空レーザ測深機(ヘリコプター) ・海底地形の保全調査 ・災害後の航路啓開調査 三次元地形図 2.水中点検ロボ ・工事の出来高測量及び机上点検 ・施設点検等の維持管理</p>	10月上旬
五洋建設株式会社 技術研究所	水中部のひび割れ補修に関する実証実験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な港湾工事の施工技術</li> </ul>	<p>コンクリート構造物における水中部での補修が可能な「セメント補修材料」を用いた品質、施工性について、ドライ状態にして検証を行う。</p>  <p>水中の試験体にひび割れに注入 試験体 試験概要 ひび割れ幅5mm 幅10mm 試験体1 水中部のひび割れを模擬した試験体 試験体2 水中部の角欠けを模擬した試験体 京浜港ドックのひび割れ状況</p>	11月中旬
五洋建設株式会社 技術研究所	水中i-Constructionのための水中ソナーによる出来形管理の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な港湾工事の施工技術</li> <li>・海洋資源調査技術</li> </ul>	<p>海中において三次元でリアルタイムの観測が可能な水中音響ソナーを用いて、港湾工事での施工管理や出来形管理および構造物の変状調査への適用可能性について検証を行う。</p>  <p>船を航行させて計測 船を静止させて計測可能 海底の構造物(イメージ)</p>	11月中旬